

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
専門学校 麻生工科大 自動車大学校		平成20年3月31日		野見山 秀樹		〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	2級自動車整備科		平成22年文部科学大臣告 示第30号	—																		
学科の目的	自動車技術の高度化が進む中、常に新しい情報を取り入れ、認証工場の整備主任者としての責務を果たせることを目的とし、国家二級ガソリン自動車整備士、国家二級ジーゼル自動車整備士、国家二級二輪自動車整備士を養成する。																						
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	2年 昼間	1935時間	735時間	0時間	1200時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
270人		199人	12人	12人	10人	22人																	
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏 季:8月3日～9月13日 ■冬 季:12月22日～1月11日 ■学年末:1月30日～3月31日			卒業・進級 条件	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 補講の実施、休学、留年			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 自動車ディーラー、自動車整備業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 職業安定法第33条の2に基づいて、求職票を受理した全学生を本校で活動する求職者として登録し、求職者の依頼に基づき就職の斡旋を行う。求職者は麻生塾就職斡旋規定のルールを遵守。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>87人</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>87人</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	87人	87人	2級ジーゼル自動車整備士	②	87人	86人				
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																		
	2級ガソリン自動車整備士	②	87人		87人																		
2級ジーゼル自動車整備士	②	87人	86人																				
■卒業生数: 94人 ■就職希望者数: 93人 ■就職者数: 93人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 98.9%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			■自由記述欄																				
中途退学 の現状	■中途退学者 18 名 ■中退率 8.1 % 平成28年4月1日時点において、在学者222名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者206名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲の喪失、単位未取得、出席不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を全額免除する。(卒業まで) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数 3名																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://entry-acet.asoiuku.ac.jp/about/subject.php">https://entry-acet.asoiuku.ac.jp/about/subject.php</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術革新の進展が待っている状況のなか、認証工場の整備主任者としての責務を果たすことを目的とし、長期休暇等でのインターンシップや企業訪問等を行うなかで、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向を的確に把握し分析し、基礎実習はもとより、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力をつける。  
また国土交通省の指針に合わせた「三級自動車整備士」「二級自動車整備士」の内容にあわせ、整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎をしっかりと学び、二年間で二級自動車整備士取得(ガソリン・ジーゼル)を目指していく。  
編成委員会を適宜開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。  
また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議は、上記第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸原 武志	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部長	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	①
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	平成29年8月1日～ 平成30年7月31日(1年)	③
坂口 哲也	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部長	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 倫太郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行補佐		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
小金丸 清	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月23日 15:00～17:00

第2回 平成28年9月2日 15:00～17:00

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 15:00～17:00

第2回 平成29年9月13日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. 学習指導

(委員意見)学習方法の工夫として、インターネットを利用した学習指導してはどうか。  
(活用状況)eラーニングコンテンツ作成、学生へ配信し使用することとしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し、現在の現場での実践していること及び必要とされることを踏まえた実習を行うことで、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせた基礎実習はもとより、国土交通省の指針に合わせた正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力を学習させ即戦力としての人材育成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

現在の自動車にあったカリキュラムを実践するとともに、国土交通省の指針にある基礎実習も確実に行う。学生の理解を単元毎に試験またはレポートを行うことで確認するとともに評価を行い、前期及び後期末時には、担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シャシ整備実習Ⅰ	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	クレメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

専攻分野における実務に関する研修については、福岡県自動車整備振興会主催の技術研修及び法令研修を必須とし、各企業にて定期的に行われる技術研修を適宜受講。受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

(期間)平成28年8月4日

(主催者)株式会社バンザイ

(目的)進化したアフターサービスの安全環境への取り組みの理解

(概要)スポット溶接、ボディアライニング、アライメント、衝突被害軽減ブレーキ、診断関連の現状及び問題点

(受講者)教員2名

2. マツダSKYACTIV技術セミナー

(期間)平成28年8月4日～5日

(主催者)マツダ株式会社

(目的)マツダの自動車開発及び技術の理解

(概要)車両開発部門:人馬一体の走りに関する開発及び新技術について

デザイン部門:マツダデザインの挑戦について

マツダ販売会社:風土改革への取り組みについて

(受講者)教員1名

3. いすゞ販売会社研修

(期間)平成28年8月5日

(主催者)いすゞ自動車販売株式会社、いすゞ自動車九州株式会社

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

4. 日産技術講習会  
(期間)平成28年8月25日～26日  
(主催者)日産自動車株式会社  
(目的)日産の技術理解  
(概要)日産先進技術に関する講習(パーキングアシスト等)  
日産EV技術に関する講習  
(受講者)教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. アドラー心理学

- (期間)平成29年2月15日  
(主催者)福岡県専修学校各種学校協会  
(目的)アドラー心理学活用による退学防止策とクラス経営術  
(概要)アドラー心理概要、教師がつくる楽しい学習環境、カウンセリングマインド、やる気を引き出す勇気付けの理論と技法  
(受講者)1名

2. 新任教員研修

- (期間)平成29年3月4日  
(主催者)学校法人麻生塾  
(目的)①麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする  
②麻生塾のクラス運営、授業法を理解する  
③同期入社間の交流を図る  
(概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など  
(受講者)教員2名

3. ハーバード流 退学防止とクラス運営術研修

- (期間)平成28年8月1日～2日  
(主催者)一般社団法人全国専門学校教育研究会  
(目的)退学防止とクラス運営  
(概要)界で最も「成功」と「幸せ」について考えてきたハーバード大学の研究から構想された「幸せになる技術」を基に、学生の退学防止とクラス運営方法を学ぶ  
(受講者)教員1名

4. 経営改革・教育改革研修

- (期間)平成28年8月2日～3日  
(主催者)一般社団法人全国専門学校教育研究会  
(目的)本研修では、専門学校特化型のアクティブ・ラーニング手法を用いた具体的な経営改革・教育改革の研修  
(概要)「将来にわたり発展していくために学校改革の方向は、どこに向かうべきなのか」  
「教職員の意識を変革しモチベーションを高めるためには」  
「卒業生の評価を高める教育改革はどのように進めれば良いのか」  
「国家資格の取得率を高めるアクティブ・ラーニング手法とは」「すぐ実践でき効果の高い教育改革とは何か」  
「入学した学生の意識を変えるためには」「退学を止めるためには」  
「募集力を高めるオープンキャンパスとは」「新たな学校種である専門職大学はどうしたら良いか」など  
(受講者)教員2名

5. 心理療法カウンセリング講座

- (期間)平成28年8月6日  
(主催者)全国Webカウンセリング協議会博多支部  
(目的)ネットトラブルへの対応  
(概要)いじめ、不登校、ネットトラブルの学校や家庭での対応  
(受講者)教員1名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

- (期間)平成29年8月  
(主催者)株式会社バンザイ  
(目的)最新の整備技術、機器類について

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 教育コーチング研修

(期間)平成29年8月

(主催者)一般社団法人全国専門学校教育研究会

(目的)教員の教育力向上と学校運営力の向上

(概要)コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング

2. 麻生塾スキルアッププログラム「クラス運営」

(期間)平成29年5月

(主催者)学校法人麻生塾

(目的)先輩教員の具体的な手法を知り、クラス運営のヒントを得る。

(概要)学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。

1対多と1対1での話し方の違い、どのようなケースにどちらが効果的かを学ぶ。

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本校では、教員に対して、チューター制度を採用している。チューター制度は多くの企業で浸透してきていて、新任教員にベテラン教員がつくことは、様々な問題等に対して迅速に対応できるようになり、教員はもとより学生に対しても良い影響があるとの意見がでた。

チューターとなる先生には負担となるが、学校全体で見た時には早期離職や学生指導などプラスとなる面が多く、引き続き実施していくこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	平成28年8月1日～ 平成29年7月31日(2年)	企業
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 営業業務部部长	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	企業
藤田 一	ダイハツ工業株式会社 執行役員	平成29年6月1日～ 平成31年5月31日(2年)	企業
時松 真秀子	平成23年度卒業生	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	卒業生
杉本 誠	平成22年度卒業生	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	卒業生
林 紀子	保護者	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	保護者
村上 伸二	東比恵2丁目町内会	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	地域住民

大和 豊	筑紫台高等学校 校長	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	高等学校
下村 輝夫	ものづくり人材育成センター 顧問	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月 )

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価、
(10)国際連携の状況	インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮、(日本語科)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 2 級自動車整備科) 平成 2 9 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車整備	整備の基礎知識、基本作業、測定作業、点検用機械工具	1 通	30	2	○			○		○	○	
○			ガソリンエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			ジーゼルエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 後	30	2	○			○		○		
○			シャシ構造	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			電装構造	電気回路、オームの法則、電気、電子についての基礎、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			二輪自動車	エンジン、シャシ、電気装置、点検整備	1 後	15	1	○			○		○		
○			材料・燃料・油脂	自動車に使われている材料についての種類、性質、特性、燃料、油脂の内容、潤滑及び潤滑油、作動油の内容	1 前	15	1	○			○		○		
○			数学 I	単位、基礎的な原理・法則、自動車の諸元、電気の基礎	1 後	15	1	○			○		○		
○			数学 II	単位、高度な原理・法則、自動車の諸元、電気の応用 (応用編)	2 前	15	1	○			○		○		

○		法規・検査Ⅰ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	1後	15	1	○				○			○			
○		法規・検査Ⅱ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	2通	30	2	○				○			○			
○		ガソリンエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	60	4	○				○			○			○
○		ジーゼルエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	45	3	○				○			○			
○		シャシ	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー、故障原因探求	2通	60	4	○				○			○			○
○		電装	エンジン、シャシ電気装置、始動装置、充電装置、点火装置、故障原因探求	2通	45	3	○				○			○			○
○		マナー	企業アプローチ、面接試験対策	1前	15	1	○				○			○			
○		就職実務Ⅰ	就職環境を知ろう、キャリアプランニング、業界研究、自己表現、筆記試験対策、「協働」の態度を持った学生生活、グローバルシティズンとしての日常・目標・「志」に向けて	1通	90	6	○				○			○			
○		就職実務Ⅱ	グローバルシティズンと志、なぜ志を立てることが大切なのか、自己を知る、伝える力を学ぶ、先人の志に学ぶ、成功者の考え方に学ぶ、テーブルマナー	2後	30	2	○				○			○			
○		基礎実習	手仕上げ工作、機械工作、基本測定実習	1前	120	3					○	○		○	○		
○		エンジン整備実習Ⅰ	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	1通	160	4					○	○		○	○		○
○		シャシ整備実習Ⅰ	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1通	160	4					○	○		○			

○		電装整備実習Ⅰ	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウオッシャ、エアコン、電気装置の配線	1通	160	4				○	○	○		
○		エンジン整備実習Ⅱ	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	2通	165	4				○	○	○	○	
○		シャシ整備実習Ⅱ	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	2通	150	3				○	○	○		
○		電装整備実習Ⅱ	半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウオッシャ、エアコン、電気装置の配線	2通	165	4				○	○	○		
○		故障原因探求	ガソリンエンジン故障原因探求、ジーゼルエンジン故障原因探求、シャシ故障原因探求、電装故障原因探求	2後	60	1				○	○	○		
○		自動車検査作業	道路運送車両法等の改正の概要、定期点検の実施時期、点検整備記録簿、自動車メーカーが指定する点検整備	2後	60	1				○	○	○		
合計				27 科目	1935 単位時間 ( 77 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件) 履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。 (履修方法) 各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、C評価以上の評価を取得することで、当該科目を履修したことを認める。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	